

先生各位

## MCIスクリーニング検査の運用に係るお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、MCIスクリーニング検査におきまして、測定委託先より報告書の仕様・運用が一部変更となる旨の連絡がありましたので、ご案内申し上げます。

何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

■実施日 2020年 4月 1日（水）測定委託先発行分より

### MCIスクリーニングの報告書文言/運用変更

#### ①報告書の記載文言の追加/変更

- 表紙に「軽度認知障害(MCI)のリスクを調べる血液検査」というサブタイトルが追加されます。
- 中面右側の測定物質ApoA1、C3、TTRの解説文言について、医療機関様や受診者様からのお声を参考に記載内容を見直しました。(※別紙1をご参照ください)

#### ②結果数値一覧の報告廃止

- 確認用控えとして報告しておりましたA4片面の結果数値一覧の報告を廃止し、受診者様用の報告書として提供しておりますA3見開きの報告書を1部追加し報告させていただきます。

#### ③認知症予防マニュアルの提供

- 「認知症予防マニュアル」を受診結果1名様分に対し1冊お返しさせていただきます。
- 「認知症予防マニュアル」は認知症についての解説や認知症予防のための運動・食事アドバイスを記載した冊子です。詳細は別紙2、右下のQRコードからもご確認下さい。



ご不明な点等ございましたら貴院担当もしくは弊社お客様窓口までお申し付け下さい。

## 別紙1:測定項目の解説について

### ◆軽度認知障害（MCI）とMCIスクリーニング検査について

- MCIは認知症ではありません。認知症になる前の状態です。MCIの段階で適切な介入を行えば、認知症の発症を予防もしくは遅らせることができると分かってきています。
- 認知症で6～8割を占めるアルツハイマー病は、その原因となるアミロイドベータペプチド（Aβ）が脳内に少しずつ蓄積することにより発症します。Aβは神経細胞にダメージを与え、記憶障害や認知機能の低下を引き起こします（下図左）。



- MCIスクリーニング検査は、Aβを脳内から排出したり、毒性を抑制したり、炎症を和らげるなど神経細胞へ与えるダメージを抑制する3種類のタンパク質の量を血液で調べることにより、MCIのリスクを判定しています（上図右）。

測定項目	説明
<b>ApoA1</b> （アポリポタンパク質A1） 標準的な範囲*：140-195 mg/dL	ApoA1は善玉コレステロールの成分です。あたまの健康を保つ脂質を運んだり、Aβを排出する働きがあることが知られています。生活習慣病や糖尿病予備軍の方は値が低くなることがあります。
<b>TTR</b> （トランスサイレチン） 標準的な範囲*：21.0-33.8 mg/dL	TTRはからだの栄養状態や炎症の状態を反映するタンパク質です。あたまの中ではAβの毒性を防ぐ働きがあることが知られています。偏った食事や極端なダイエットを行っている場合は値が低くなる可能性があります。
<b>C3</b> （補体第3成分） 標準的な範囲*：0.99-2.86 Unit	C3はからだの免疫力の主役となるタンパク質です。あたまの中のAβを排除する役割を担う細胞（ミクログリア）の働きに不可欠です。不規則な生活習慣や運動不足は免疫力の低下を招き値が低くなる可能性があります。

\*血液検査受診者約16,000人を対象とした平均値±標準偏差を標準的な範囲として示しています。  
 一般の血液検査の基準値とは異なりますのでご注意ください。

- ご自分の健康状態を知り、適度な運動、栄養バランスの取れた適量な食事の実践など、生活習慣の改善に取り組むことで、3つのタンパク質の量を適切な状態に向かわせ、MCIのリスクを低減させることが可能です。

